

JR 在来線完全制覇の旅（第六回）

清水 勉

温泉、神社・仏閣、酒蔵、マイクロ鉄塔を巡る「旧国鉄在来線の旅」（南九州編）

いよいよ新幹線が津軽海峡を渡り、北海道新幹線が2016年3月26日、新青森駅～函館北斗駅間が開通し4時間10分で結ばれます。最終の札幌駅までの開通予定時期は2030年です。

今回の旅は、北海道の反対側である南九州にしました。

南九州には、宮崎県（2013年11月）、鹿児島県（2016年2月）の2回に分けて訪ねました。

まず宮崎県ですが、古事記、日本書紀に記載されている天孫降臨、天の岩屋戸隠れなど神話の國としてあまりにも有名です。



【左：高千穂峡】

神話の里である高千穂地方に通じる路線として、同県の延岡駅～高千穂駅までに高千穂線があり旧国鉄から第三セクターに転換されました。しかし、2005年9月の台風により鉄橋等に甚大な被害が発生し2008年12月に全線が廃止されました。この路線、本来は熊本県の高森線（現第三セクター：南阿蘇鉄道）と結び熊本～宮崎間の九州横断鉄道として計画された路線でした。

日向灘沿線を走る路線は日豊本線で、福岡県北九州市小倉駅と鹿児島県鹿児島中央駅を結ぶ幹線路線です。日豊本線の名称は、“日向の國と豊前の國を結ぶ”ことを意味する路線名です。



延岡駅から宮崎駅方面に向かうと都農（つの）駅があります。ここから徒歩30分、国道10号線近くに日向国一ノ宮である都農神社が閑静な森の中に鎮座しています。

【上：都農駅、下：都農神社】



都農町一帯は、縄文時代からの遺跡が数多く発掘されており、古墳も20基以上もあり都農古墳群と呼ばれています。

有史以来、人々が居住していたことを物語っています。

都農駅を出ると途中に佐土原駅がありま

す。この駅からも旧杉安駅までを結ぶ妻（つま）線がありましたが、1984年12月に廃止となりました。旧杉安駅からは、熊本県の湯前線（現第三セクター；くまがわ鉄道）と結ぶ予定でした。

九州横断鉄道路線計画は、現存する2路線の久大本線（久留米～大分）、豊肥本線（大分～熊本）と合わせると4路線となります。



宮崎駅一つ手前に宮崎神宮駅があります。駅舎には、鳥居がありいかにも神社参拝駅と感じる造りとなっています。



駅から徒歩10分程度、鬱蒼とした森の中に社殿がありました。上古の時代から存在するようですが、文献に表されてくるのは鎌倉時代からのようです。

【上：宮崎神宮駅、下：宮崎神宮】

御祭神は、神日本磐余彦尊（ヤマト・イワレヒコ：神武天皇）で東征以前の宮と言われています。

宮崎駅に到着すると日南線、宮崎空港線も当駅から運行しています。



【左：宮崎駅】

駅前には南国ムード漂う造りとなっておりメインストリートが伸びていますが、歩いて行くとNTT西日本宮崎ビル、NTTcom宮崎ビルがあります。

全国を廻ると県庁所在地の大型鉄塔は、5段



【左：NTT西日本・NTTcom宮崎ビル】

プラットホームでホーンアンテナ含めて30面収容タイプです。宮崎の場合は、両方の鉄塔で30面タイプになっているようです。

宮崎駅から日南線に乗車すると南宮崎駅で鹿児島方面と別れ、更に次の田吉駅で宮崎空港駅に向かいます。

本駅は、1996年7月に開業し普通列車および『特急にちりん』が運行しています。なお、宮崎駅～宮崎空港駅間は、普通乗車券で特急列車の自由席に乗車できます。

田吉駅から日南線終点の志布志駅方面に向かうと青島駅があり、下車し徒歩で青島に向かいます。



海岸線には鬼の洗濯岩があり、更に進むと島内に鎮座する青島神社に到着します。ここは、読売巨人軍キャンプ前恒例の優勝および安全祈願を行っている神社です。

【上：青島駅、下：青島神社】



青島神社の御祭神は、火遠理命（ホオリノミコト）ですが、古事記に登場する『海幸山幸』の説話で一般的には『山幸彦：神武天皇の祖父』として知られています。日南線には、『臨時特急列車：海幸山幸号』が運行されています。



青島駅から日南線に揺られて行くと、九州の小京都と言われている飫肥駅に到着します。飫肥駅から徒歩 15 分、酒谷川を利用した城下町で国道 222 号線沿いに飫肥町が構成されています。武家屋敷の門構え、風情ある街並み、復元された大手門や樽を設置した商家、街中を流れる掘割なども見られます。

【上：飫肥駅、下：飫肥城大手門】



更に日南線を下ると油津駅です。ここから地元の宮崎交通バスで約 15 分、有名な鵜戸（ウド）神宮に到着します。本殿は、全国的にも珍しい浸食された海岸洞窟内に鎮座しています。御祭神は、ウガヤフキアエズ神（山幸彦の子供＝神武天皇の父）です。また、霊石亀岩の枡形に運玉が入れば願いが叶うと言われています。但し、注意しなければならない点は、本殿まではバス停から徒歩 25 分、階段のアップダウンが多いなど体力に自信があるうちに参拝することが良いでしょう。

【上：油津駅、下：鵜戸神宮】



最後に終着駅の志布志駅に到着しますが駅舎が真横になっており、『これ以上先には線路が無いよ』と言っているようでした。



志布志駅からは、西都城駅と結んでいた志布志線、国分駅と結んでいた大隅線



がありました。【左：志布志駅】

続いて日豊本線を鹿児島方面に向かうと都城駅があります。

本線は、霧島神宮駅、隼人駅を経て鹿児島に向かいますが、広大な『えびの高原』を経由して吉松駅に向かう吉都（きつと）線が都城駅から運行しています。

その名のおり吉松～都城間を結ぶ路線ですが、実際の運行は肥薩線を経由し隼人～吉松～都城間を直通で結んでいます。

吉松駅からは、日本三大車窓と言われている霧島連山、大畑ループを見ながら人吉方面とを結んでいます。この路線には、普通列車でありながら観光列車として『いさぶろう・しんぺい号』が運行されています。

本来、肥薩線（八代～吉松～隼人）は最初の鹿児島本線でしたが、八代～水俣～出水～薩摩川内～鹿児島間の海岸沿い路線が開通したことから、肥薩線と名称変更になりました。現在は、海線の八代～薩摩川内間は、第三セクター：肥薩オレンジ鉄道に転換されました。

余談ですが、山線・海線で開通した路線も

多々あり、東北地方では利府線（利府駅～品井沼駅間は廃線）と現在の東北本線、御殿場線と東海道本線、中国地方では岩徳線と山陽本線、四国では内子線と予讃線があります。

更に、第一ルート、第二ルートの面では、函館本線の七飯駅～大沼駅～森駅間の8の字ループ、阿武隈急行電鉄（旧丸森線）と東北本線、天竜浜名湖鉄道（旧二俣線）と東海道本線等があります。

話を日豊本線に戻し霧島神宮駅、隼人駅と進むと鹿児島駅、そして鹿児島中央駅（旧西鹿児島駅）に到着し終点となります。

鹿児島駅は戦前までは市の中心部でしたが、その後、開発が西寄りに進み西鹿児島駅に中心部が移動してしまいました。



しかし、地元の強い意向もあり駅名変更もできませんでしたが、九州新幹線開業に合わせ、西鹿児島駅から鹿児島中央駅に駅名変更を行い名実と共に中心駅となりました。

【上：鹿児島中央駅、下：西郷隆盛生誕地】



鹿児島中央駅から徒歩で西郷隆盛を始め多くの著名人の生誕地、繁華街の天文館通り等市内散策ができます。夜の天文館通の飲食店街も乙なものですよ。

NTT 設備の中心点も同付近にあり、NTTcom 鹿児島ビル、NTTdocomo 鹿児島ビルの鉄塔も地域に溶け込んでいます。**【左：NTT 各ビル】**



鹿児島中央駅からは、九州新幹線、鹿児島本線、指宿枕崎線が運行されています。

指宿枕崎線沿線には、砂蒸しで有名な指宿温泉がありますが少し注意が必要です。効能は、普通の温泉より3～4倍ほどあるようですが、逆に身体への負担が多いとのこと。特に、高血圧、心臓病、不整脈、狭心症などの持病の方はご遠慮とのコメントが出されています。指宿枕崎線には、特急『指宿の玉手箱：いぶたま』が運行されています。当日も大勢の観光客が乗車されていました。



指宿駅を出ると乗車人数が激減しますが、まだまだ観光客は乗車しています。皆さんの次の目的地は、日本最南端の駅である西大山駅です。

【上：西大山駅、下：開聞岳と最南端標識】



西大山駅は駅舎も無く無人駅ですが、2分間の停車時間を設けています。

2分間過ぎますと運転手さんが発車の合図である警笛をならしてくれます。勿論、観光バス、自家用車で訪れる方々もいます。開聞岳





をバックに記念写真を撮る観光客で賑わっていますので訪れてみて下さい。

列車は西大山駅を出ると開聞岳を廻り終点の枕崎駅に到着します。枕崎まで乗車する人は、地元人は皆無で乗り鉄3名でした。

枕崎市は、漁業の町でありカツオ節は生産量日本一、カツオ漁業と合わせて中心的な産業となっています。枕崎駅からは、鹿児島交通枕崎線が鹿児島本線の伊集院駅までを結んでいましたが、1984年(昭和59年)3月に全線廃止になりました。



2016年2月の旅行では、神社3か所の参拝を行うためレンタカーで移動しました。

まずは薩摩国一ノ宮である牧聞神社(指宿市)に赴きます。鹿児島市内から約50Km、開聞駅近くに鎮座しており御神体は、山岳信仰の対象である開聞岳とされています。

【上：牧聞神社、下：新田神社】



更に薩摩半島を北上すること約90Km、薩摩川内市内の小高い場所に鎮座する薩摩国一ノ宮である新田神社に参拝しました。

最後に向かうのは、大隅国一ノ宮である鹿児島神宮(霧島市)です。薩摩川内市から約60Km、日豊本線隼人駅近くの丘陵部に鎮座しています。**【左：鹿児島神宮】**



境内では、翌日に開催される紀元節の準備が行われていました。三カ所を朝から廻り約250Km、所要時間約9時間の行程でした。

そして忘れてはならないのが、知覧町にある『知覧特攻平和会館』です。

かつてここに存在した神風特攻隊の前線基地である知覧飛行場から、沖縄海戦へ特攻隊員が飛び立った場所なのです。

【左：知覧特攻平和会館】



この会館に向かう道路は三方面から来られますが、会館に近づくと石灯籠が連続して設置されています。推定ですが、戦死した知覧特攻隊員(439名：全特攻戦死者1,036名)の



数だけ設置されているのでしょうか。

会館には、数多くの特攻隊員の遺書が残されています。最年少は、何と17歳の少年が大空に散って行きました。関東にも存在した、『永遠の0（ゼロ）』の撮影地である『旧筑波海軍航空隊』等をはじめ、各地で養成された特攻隊員が最後に生活した場所になります。



敷地内には、当時生活した三角兵舎が復元されており最終前夜に壮行会が行われていたそうです。そして特攻隊員をお世話したのが、知覧高等女学校勤労女子学生（なでしこ隊）でした。また、近くの旅館では、遠方から来られた両親との最後の面談も行われていたとのこと。残された遺書を読みますと目頭が自然に熱くなり、悲惨な戦争を絶対に起こしてはならないと感じます。



一生に一度は訪れたい場所です。

九州も広く特に福岡県、佐賀県、長崎県は運行している路線が多数あり全路線の乗車には時間とお金が必要です。

往復は空路を使いながら効率的に旅を進めて行きたいと思います。

